まちなか座談会

小学生の子をもつ30代から40代の市民の方々に集まっていただき、「子どもたちの笑顔のために」と題し、子育てをテーマにした座談会を開催いたしました。

子どもたちの笑顔のために

【まずは大人が変わらないと始まらない】

まず今現在の子どもたちの置かれた環境を、参加者の皆さんで今一度考えていただきました。

「今の子どもたちは昔と違い、いろいろと遊ぶものがあり、ゲームやインターネットの普及により自分で考えて遊ぶというよりは、与えられたもので遊ぶ事が多いのでは」「今の子どもたちは、ある意味かわいそう」といった意見まででました。

「昔は学校から戻れば近くの公園や広場に行って、近所からいろいろな学年の子どもたちが自然と集まって来ていて、いつの間にか缶けりや、ビー玉などでみんなで遊んでいた記憶が強いなぁ」と懐かしそうにお話されました。以前は近所の大人たちが子どもたちの多くを知っていて、「あの子は○○さんとこの子どもやで」など近所付き合いも大人だけでなく子ども達まで浸透していて、家族ぐるみで地域に溶け込む姿が多く見られたということです。

昔は地域での大人同士の繋がりが今よりも盛んだったが、今は地域との繋がりが薄くなっているとも聞かれます。

「まずは自分達を知ってもらうため地域の行事に積極的に参加し、その場に子どもを一緒に連れていくことで、ご近所の方々に親子共々の顔や名前を認知していただけるようになったんです」と自身の経験談も交えながらお話いただきました。

～誰もいない公園～

例えば市民病院横のふれあい公園には、たくさんの親子がいるのにある公園には誰もいないそうです。すごく良い公園なのになぜか誰もいない。親の間では危険であまり近づかないようにと指導されてる方が多いらしい。

違いは何なのか考えてみると、ふれあい公園はすごくオープンで園内を見渡せ一望できるが、ある公園は自然が大変豊かだけど、死角が多く不審者情報も聞くということです。

死角が多いから危ないと言われ、危ないと言われるから人が集まらない悪循環に陥っているようです。

～待ちあわせ場所は学校～

「休日の昼間どの公園に行っても子どもを見かけなくなったなぁ」

近所には多くの公園や遊ぶ場所があるのに、子どもが誰もいないという。

結局安全に遊べる場所がなく安全といえば学校になり、学校で待ち合わせして遊んでいる子が多いということです。

学校だと先生もおられ、帰る時間になれば帰るように促してもらえ、親としても安心して送りだせるからだと・・・

～今、本当に子どもたちの居場所がない～

しかしその学校にも、子どもたちの習い事や塾などでほんの一部の子どもたちしか集まらないようで、一緒に遊ぶ子どもがいない子もおり、その解決法として地域の方々が子どもたちの居場所をつくろうと様々な取り組みをされているようですが、まだまだ親たちの認知も少ない現状があり、成果が表れていないということです。

「子ども同士で相談しても遊びが決まらない時も多く、考える力がなくなってきていて与えられたものでしか遊べない子が増えているのではないのかなぁ」と感じられていたり、昔と違い異年齢で遊んでいないことや外で遊ぶことが減少したこと、また少子化や一人っ子が増えたことも要因ではないかとも。

～お父さんがヒーローになった瞬間～

野洲川冒険大会での「わんぱく隊」と題した継続事業を開催してきたことに触れ、「子どもたちにはいかだづくりや、いかだくだりの体験を通して家族や大人との関わりや、自然体験の学びの場となるよう数多くの市民の方々や、多くの団体と取り組んできたんです」そのわんぱく隊に参加された方に伺うと「子どもたちにとってお父さんのすごさを証明出来た時間でよかったです」「子どもたちのお父さんの見る目が明らかに違ってました」とうれしい出来事もあり「わんぱく隊」を通して、家族みんなで力を合わせひとつの事に取り組むことで、家族の一体感が強くなった貴重な体験でしたと語っておられました。

～コミュニケーション不足が原因～

私達が子どもの頃は兄や姉の遊びに弟や妹がついていったり幅広い年代の子どもたちで普段から遊んでいたことが多く、「今以上に子ども同士のコミュニケーションがとれていたのでは」と感じているようです。

今は登下校時に下級生が上級生の言うことを聞かずトラブルになることもあるようです。

～安心して遊べる環境を～

自分たちの子どもの頃には行っていた場所や遊びを、今は「あそこには行ったらダメ」とか「これはダメ」とか今の子どもたちは多くの制限を受けているように感じられ、少し親がかばいすぎる点もあり、「大人も子どもの遊び場所や遊び方を注意するだけでなく理解していくことも必要かな」という意見も。「昔は地域の大人たちが温かく見守ってくれたのかな」大人たちも昔とは環境が大きく変化していて、自分自身の都合を優先して子どもたちの遊び場所などを制限している部分もあるのではと感じました。

～時間が足りない!? 今の先生～

続いて教育の現場である学校について聞いてみました。

「学校の先生方は、本当に多忙で気の毒です」と今の先生たちを見て感じられているようです。

「昔は学校で先生に怒られたなんていうと親にまた怒られたもんだ」と、今も学校で起きた些細なことなどは、ほったらかしという意味でなく、学校の中で先生と子どもの間で解決して欲しいという親もいれば、どんな些細なことでもすべて知りたいと願う親もおり、どちらがいいとは言えませんが先生の対応も大変難しく気の毒だなと感じる部分が多いようです。

～子どもたちと先生の良い関係とは～

子どもを上から見下ろすとか平等・公平性という観点から、今全国の教育の現場では教壇をなくす取り組みが多く見られるということです。「教壇は先生だけのためにあるのではなく、子どもがその場に立って発言できなくなるという部分を今一度考えるべきだ」と。

今の大人たちは誰もが経験した教壇の上で黒板に向かったり、発言した緊張感はとても貴重で重要な経験だったと感じておられます。

～我々が架け橋に～

今は地域との関わりが希薄といわれる中で、「我々と同世代の方たちの誰もが地域や子どもたちとの関わりや繋がりが薄くなっていく事を望んでないのです」「逆にもっと関わりを持ちたいと考えてる人も多いけれど、そういった場が少ない現状もあるし、地域での取り組みも減ってるのかなぁ」という話もでておりました。

㈱守山青年会議所も様々な活動や取り組みの中で、子どもたちと大人が繋がりを持てる機会はもっと必要だと感じておりますし、そういった機会を作っていくと同時に、今後も市民の方々と共に、我々がひととひとがつながる架け橋となべく活動に取り組んでまいります。

～大人同士の繋がりを持つきっかけ～

その後、「参加された家族とも互いに連絡を取るようになり、いかだくだり以外の家庭や子ども・子育てに関する話をする機会がもてた」と喜ぶ方や「こういった悩みや相談を聞いてもらうことで本当に少し気持ちが楽になり安心するし、共感してもらえたら何か救われた気がするし、とても大切な時間です」とのお話もあり、親同士が繋がり、関わりを持つことで子どもたちにも繋がり、関わりを持てるようになったとも。

WELCOME! 会員募集中!!

青年会議所活動は青年期の的確なトレーニングと実戦経験が優れた人材を育てます。

青年会議所には、品格ある青年であれば、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によって入会できますが、20歳から40歳までという年齢制限を設けています。これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を集結し社会に貢献する事を目的に組織された青年のための団体だからです。すべての会員は40歳を越えると現役を退いてOBにならなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所の特徴であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。よってすべての役職の任期は一年に限られています。

青年会議所は、一人ひとりの会員が優れたリーダーシップを持つ社会人となる為のトレーニングを行う団体です。一年ごとに様々な役職を経験することで、会員は豊富な実戦経験を積むことが出来、自己修練の成果を個々の活動にフィードバックさせていけます。青年会議所における様々な実践トレーニングを経験した会員の活動分野は幅広く、OBも含め各界で、社会に貢献しています。

守山50名・滋賀県600名の仲間があなたを待っています!!

社会開発委員会

委員長 中道真央 守山播磨田郵便局
副委員長 三品知寛 ㈱ケクシー㈱ 守山
委員 今井貴善 ㈱みずほ設備工業 水保町
委員 岡本 篤 すもと岡本歯科 洲本町
委員 奥野英樹 えり市 赤野井町
委員 下村一郎 守山駅前郵便局 守山
委員 藤本俊也 藤本工務店 赤野井町
委員 森 貴尉 ㈱盛波トレーディング 播磨田町

地域研修委員会

委員長 清原大晶 ㈱清原 古高町
副委員長 富村美緒 ㈱冨村設備 吉身
委員 川口俊昭 滋賀中央信用金庫 守山
委員 北口 優 ㈱ゲループ北口 荒見町
委員 小坂智雄 ㈱アイランドワーク 吉身
委員 山浦浩明 ㈱サンレイ工業 水保町
委員 吉原史雄 守山市役所 吉身
委員 村上幸生 ㈱幸弘設備 矢島町

監事

西村拓郎(S45生) ㈲反栄自動車工業所 野洲市野洲
堀井直晃(S45生) ㈱堀井商店 守山

顧問

西村弘樹(S45生) 湖南石油㈱ 勝部

事務局

事務局員 中井 智子

執行部

副理事長 間宮良仁 ㈱ライフソケット 守山
副理事長 田中秀和 丸善自動車工業所 石田町
副理事長 河合芳幸 ㈱風雅 梅田町
専務理事 北田欽也(S46生) 北田電設㈱ 梅田町
理事長 山本英弥(S47生) 赤井住宅設備㈱ 石田町
直前理事長 北野裕一郎(S44生) 養子家走野宗道事務所 今宿
新谷労務管理事務所 吉身
室長 近藤昌樹 ㈱近藤自工 播磨田町
室長 林 忠広 守山ボス塗装センター㈱ 吉身
室長 新谷文孝

総務委員会

委員長 川嶋忠司 ㈱黒田商会 野洲市辻町
副委員長 田中尚仁 ㈲第一観光サービス 下之郷町
委員 泉岡武士 泉岡武道具 梅田町
委員 西田裕美 和DININGしゅん 浮気町
委員 藤本進矢 ㈱藤本電気商会 川田町
委員 宮川昌士 ㈱ハッフ開発 吉身

広報渉外委員会

委員長 渡辺年貴 ㈲いろは花店 守山
副委員長 猪飼 寛 ㈱猪飼工務店 水保町
委員 梅谷昌廣 梅谷整骨院 播磨田町
委員 木村隆行 ㈱オフィス・サービス 守山
委員 西本憲志 ㈱富綜 吉身
委員 三宮裕信 ㈱三利木材 石田町

会員交流委員会

委員長 青木高雄 アオキチクノ㈱ 金森町
副委員長 園田恵太 真和工業㈱ 古高町
委員 岩崎元英 ㈱岩崎地所 今宿
委員 上原 茂 ㈱上原フォートスタジオ 守山
委員 佐藤雅恵 私立近江兄弟社小学校 近江八幡市市井町

特別会員

赤井 清司　竹村 茂一
猪飼敏富視　武村 昌信
石田 和成　立入 一道
石田 俊和　田中 清
石田 好次　田中才知郎
井上 靖博　田中 民治
井上 昭嗣　田中 強
今井 寿　田中 督二
今井 秀之　田中 尚
今井 文隆　田中 秀和
今井 康夫　田中 秀行
今村 浩之　辻 忍
岩佐 滋久　辻 貢
上田 禎造　辻井 浩二
上路 和夫　津田 明
鵜飼 貞夫　津田 彪
鵜飼 重樹　和弘
内田 秋男　寺井 良成
内田 栄吉　寺井 恭章
内田 重治　寺田 仁史
内田 誠　寺田 正人
宇野 孝司　敬一
宇野 英保子　督永
宇野美保子　徳永 俊治
江森 功朗　中井 公司
江藤 尚兵　中井 昌喜
遠藤 秀樹　永尾 健治
大井 昭雄　中川 隆
大崎 悟　中川 知博
大崎 四郎　中澤儀一郎
大嵜 忠男　中島 幸雄
大嵜 秀久　中西壮一郎
太田 晶子　中野 俊彦
太田 真　中野 敏広
大槻 平雄　中村 知史
大西 勇　中村 芳幸
大林 智　南條 博彦
大林木国雄　西浦 克司
岡田 康隆　西本 良政
岡村 貞一　西野 光夫
奥坂 明良　西野 晃
奥村 眞治　西村 省司
加々爪豊彰　西村 弘樹
勝見 秀憲　西村 弘次
門脇 征一　西村 好正
亀田 幸司　西脇 真三
川井 幸三　西脇 弘義
川崎 清彦　野村 善彦
川崎 利治　萩原 康雄
川嶋 栄司　笹井 泰浩
川嶋 泰平　長谷川勝蔵
河野 俊郎　中川 裕士
川端 美臣　八田 和芳
川村 邦雄　八田 大作
服部 晃扶　馬渕 勇一
河村 将則　馬渕 勇一
河村 利夫　間宮甚三郎
花田 政己　三人保清行
花房 正和　三人保 清
岸 俊弘　三品 光男
北川 和彦　三品 孝男
北川 英次　三品東洋一
北川 恭司　三品 裕通
北川 吉照　水田 俊克
北川 東　水田 弘
北田 敏　水田 宏樹
北田 照夫　宮崎 裕通
北野 宗道　宮田 正
北野 真裕　宮田 典祐
北野裕一郎　宮田 義春
北村 孝　宮島 勝也
北村 泰孝　宮本 浩之
北村 嘉男　宮本 雅章
木戸脇晋兵衛　村上多加志
木戸脇輔三　村田 一男
木戸脇吉彦　村田 宏
木村 利男　村田 雅彦
木村 博之　森田 重夫
後藤 諦　森田 重吾
後藤 正善　森田 潤
小林 宏樹　森本 藤樹
小林 弘　森 孝
小松 繁司　山口 常夫
小松 稔男　山口 宗美
小柳 登　山田 隆広
近藤 弘幸　山田 清治
酒井 幸二郎　山本 浄市
酒井 隆雄　山本太市郎
酒井登志雄　横江 正弘
酒井 義春　吉川 正
阪口 勝廣　吉田 喜彦
坂本 浩之　若杉 安雄
坂本 勉　渡辺 節夫
桜井 将則　渡辺北二郎
佐々木博士　渡辺 忠雄
三野 弘　（五十音順）
島田善紀世
嶋本 政行
清水 隆吉
清水 隆
下村 和雄
下村 清明
下村 耕
下村千四郎
下村日出男
白井 清治
新道 正善
新野富美夫
杉江 幸一
杉江 功壮
杉山 文雄
鈴木 徹
瀬川 英一
瀬野 富夫
田井中成夫
高田 三郎
高田 博幸
高橋 勉
竹中 弘